

造血器腫瘍ゲノム医療外来について

「造血器腫瘍遺伝子パネル検査」をご検討の先生は、以下をご一読ください。
ご理解いただいた上で造血器腫瘍ゲノム医療外来にご紹介をお願いします。

1. 造血器腫瘍遺伝子パネル検査とは

「造血器腫瘍遺伝子パネル検査」では、患者さんのがん細胞の特徴をゲノム解析によって網羅的に調べ、がんと関連する多数の遺伝子の状態を確認します。解析結果は医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、認定遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャンをはじめとした、多職種多分野による専門家会議（エキスパートパネル）で議論し、治療効果が期待できる薬剤や、参加できる可能性がある臨床試験・治験の有無を含めた最適な治療法を検討します。

2. 造血器腫瘍遺伝子パネル検査の利点と限界

以下の点を患者さんにご説明ください。

- ・治療選択に有用な情報が何も得られない可能性があること
- ・解析に用いた検体の品質や量によっては、解析自体が不成功に終わる可能性があること
- ・検査結果に基づいた治療を受けられない場合があること

なお、この検査によって治療効果が期待できる治療薬の情報が得られた場合でも、その治療薬の効果を保証するものではありません。

3. 検査後の治療について

当外来は検査外来です。造血器腫瘍遺伝子パネル検査は、現在通院中の主治医の判断に必要な情報を提供するものであって、検査後の治療は現在治療を行っている主治医の判断となります。

この検査の結果が、主治医の判断よりも優先されることはありません。

4. 適応の対象となる患者さんについて

下記の造血器腫瘍又は類縁疾患の患者さんが対象となります。ただし、状態により、全ての患者さんが検査を受けることができるとは限りません。

■ 初発時

- ・急性骨髓性白血病
- ・急性リンパ性白血病
- ・骨髄異形成症候群
- ・骨髄増殖性腫瘍およびその類縁腫瘍
- ・組織球及び樹状細胞腫瘍

■ 初発時（従来の方法による検索が行えない、または他の造血器腫瘍または類縁疾患と鑑別が困難な場合）

- ・アグレッシブB細胞非ホジキンリンパ腫
- ・インドレントB細胞非ホジキンリンパ腫
- ・T細胞非ホジキンリンパ腫
- ・NK細胞非ホジキンリンパ腫
- ・多発性骨髄腫

■ 再発または難治時

- ・急性骨髓性白血病

■ 再発または難治時（従来の方法による検索が行えない、または他の造血器腫瘍または類縁疾患と鑑別が困難な場合）

- ・フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病
- ・インドレントB細胞非ホジキンリンパ腫
- ・T細胞非ホジキンリンパ腫
- ・NK細胞非ホジキンリンパ腫
- ・慢性リンパ性白血病

■ 病期を問わない（既存の検査および病理診断等で確定診断に至らず、治療方針の決定が困難な場合）

- ・原因不明の著しい血球減少